

第2回 教職の魅力創造プラットフォーム会議事録

日時：令和4年12月18日（日）9：30～10：30

場所：山形大学基盤教育棟1号館1階会議室

出席者

委員	出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
	中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
	大村 一史	山形大学地域教育文化学部 教授
	江間 史明	山形大学大学院教育実践研究科 教授
	森田 智幸	山形大学大学院教育実践研究科 准教授
	井上 文	山形県教育庁高校教育課 指導主事
	鎌水 浩二	山形県立山形西高等学校 教諭
	深瀬 百合	山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年
	村岡 亜美	山形県立山形東高等学校2年
	中入 奏音	山形県立山形西高等学校2年
	青柳 敦子	山形県立長井高等学校 校長
	樋渡 美千代	山形県教育センター 副所長
	宮舘 新吾	山形大学大学院教育実践研究科 准教授

オブザーバー

森田 史生 福井大学連合教職大学院 准教授

欠席者

委員	石垣 和恵	山形大学地域教育文化学部 准教授
委員	藤田 千世	山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年

議事に先立ち、出口副学長より挨拶として次の発言があった。

・教員不足が問題となる現在ではあるが、令和5年度採用予定の山形県の小学校教員185名のうち本学は22名（12%）である。本学では量的な貢献とともに教員の質を向上させる面にも貢献していきたいと考えている。県の高校進学担当者との話し合いで、教師のやりがいだけでは、もう高校生は教職を選ばない、と言われたことが気になっている。

・本プロジェクトの小学校教員体験セミナーは、地域と連携して高校生の教職への関心を高める取り組みである。学びのフォーラムは、参加した高校生の本学への進学傾向が認められている。今後は、より多様な人々と関わっていく方向が求められよう。聞き書きプロジェクトは、教員に採用される4年生が、卒業前に改めて教師という仕事を見つめ直す機会となっている。

・教員の成り手を世の中全体でどう考えるか、さらに教育をどのように発展させていくかを考えることが本プロジェクトの本質であると考えている。ぜひこの取り組みを継続していきたい。

その後、委員の自己紹介が行われた。また、協議事項は、「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

議 題

1. 協議事項

（1）教職の魅力向上プロジェクトの進捗状況 について

①小学校教員体験セミナー

井上委員より、資料に基づきこれまでの経過と今年度の実施状況（4 高校 60 名が 4 小学校で体験活動に参加）、および参加生徒の感想の概要、他地区への事業拡大といった今後の展望と課題について説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

- ・参加した生徒からの感想は、非常に高い割合で高評価となっている。
- ・セミナーに参加し、実際の学校現場での体験ができたことで、教職に対する新たな気づきがあった、視野が広がったという声も多い。
- ・体験セミナーへの参加が、今後の進路検討にあたり、教員という職業や自分自身の志望意志を見つめなおす貴重な機会になっている。
- ・自分自身の希望とのギャップを感じたとしても、それはそれで貴重な学びになっている。
- ・責任感の強い生徒、学生ほど、自分が教員になっていいのだろうかと考えこんでしまったりする。実施後のアフター・フォローも重要だと思われる。
- ・高校生として、小学校での体験活動のあとに大学生とグループディスカッションができる生の声を聞いたことは、非常にいい経験だった。教職志望の程度に関わらず多くの高校生にこのような機会があったならば、志望についての考えを深めるいい機会になるとと思われる。
- ・高校現場としても有難い機会だと思っている。ぜひ山形市内に限らず地域を広げていただきたい。
- ・取り組みの趣旨を小学校現場の教員にもより理解してもらうことで、連携を深められ、さらにより取り組みになると考える。多くの人を巻き込んで共に活動していくことを目指していけたらいいのではないか。

②学びのフォーラム

森田委員より、資料に基づき今年度の学びのフォーラム開催状況について説明があった。今年度は置賜地区、庄内地区でサテライト開催がされており、全体の参加者数（高校生 37 人、大学生 27 人、社会人 61 人、合計 125 人）や参加者からの感想などが報告され、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

- ・今回、新型コロナウイルス感染症の関係で広報活動を抑えたなかでも集まっている参加者は、本当に参加したい人、意識を高くもっている人が参加していると思われる。
- ・本日（12 月 18 日）午後開催される「学びのフォーラム in 小白川」については、高校生のオンライン参加はなく全員が会場参加で、実体験を求めているのではないかと思われる。
- ・社会人からの申し込みも増え、参加者が教員以外にも広がり多様になっているので、今後はその背景も調べていきたい。
- ・世の中で「探究活動」などがより認知されて、興味を持つ方が増えているのではないか。
- ・小学校体験セミナーとのつながりをよりスムーズにできたら、高校生の興味関心や学びをさらに深められるのではないか。
- ・開催地区の拡大に併せて、開催時期の検討がより重要になるだろう。小学校体験セミナーから学びのフォーラムまでの期間があまり開かない方が望ましいと思われる。
- ・12 月は高校生を対象とした土日のイベントや行事が多く、参加したい気持ちがあっても参加できなかった生徒がいただろうと推察される。
- ・夏休みなど大型休みの期間でないとも参加が難しい生徒も多いのではないか。高校生としては、開催時期を改めて検討してもらえると有難い。

③聞き書きプロジェクト

江間委員より、資料に基づき聞き書きプロジェクトについて説明があった。聞き書きプロジェクトに取り組んだ学生 4 人の感想や、聞き書きに応じてくださった恩師の先生の感想、および今年度の取り組み学生による作品のうち一つが紹介され、確認がなされた。

次いで以下のような意見交換があった。

- ・同じ学生の立場としてこの作品の発表を聞いたが、魅力的な取り組みだと感じた。先生と出会った当時の言動の意味を改めて知ることができ、教員という仕事への理解を深めることができる。また、なぜその先生との出会いによって教職を志すようになったのか、先生のどのような部分に憧れたり、魅力を感じたりしたのか分析できるととてもいい機会になっていると思う。
- ・教員採用試験前の時期に、このようなインタビューができれば、志望理由をより明確にできそうだった。
- ・聞き書きのこの作品を、若い先生方にも読んでもらうことで、気づきや学びにつながるのではと感じた。初任者研修の資料等に活用できるのではないかと。教員としての覚悟や想いを再確認するいい機会になると思われる。

(2) 今後の予定について

森田委員から、今年度の本プロジェクト事業は本日午後に開催される「学びのフォーラム in 小白川」で終了となる。来年度の詳細はこれからになるものの、同様の開催を検討している旨発言があり、確認された。

(3) その他

なし

2. その他

- ・オブザーバー 森田史生 福井大学連合教職大学院 准教授からの感想

高校生、大学生、そして高校教員と大学関係者が集う魅力的な会合だと感じた。高校生のキャリア教育というなかで、教職に特化した事業が行われている点は特徴的だと感じた。ぜひ福井でも参考にしていきたいという旨発言があった。

